

Library News : **滋賀医科大学附属図書館報** No.2  
(1979.6)

発行年	1979-06
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10422/1114">http://hdl.handle.net/10422/1114</a>

# Library News

June. 1979.

滋賀医科大学附属図書館報

目	次
図書館竣工・開館記念式典	1
新図書館を利用するために	3
視聴覚施設の利用について	6
J O I S オンライン文献検索ファイルの変更について	7
I D E A S / 77 (筑波大学会話型情報検索システム) の利用について	7
Telex 開通のお知らせ	8
国立大学等間における文献複写システムの改善について	9
県内医療機関に対するサービス開始	9
図書館の活動 (53・11~54・5)	10

## 図書館竣工・開館記念式典を挙行

昨年7月に着工した図書館棟が竣工し、去る3月22日(木)“滋賀医科大学附属図書館竣工・開館記念式典”を挙行了しました。

当日は天候にも恵まれ、文部省・京都大学附属図書館長・大阪大学附属図書館長・滋賀県医師会・京都アメリカンセンター館長をはじめ、学内招待者と共に多数の参列の下に、下記のスケジュールで行なわれました。

記

記念式典 (午前11時 管理棟大会議室)

司 会 : 井上庶務課長

式 辞 : 脇坂学長

挨拶・経過報告 : 野崎附属図書館長

祝 辞 : 林京都大学附属図書館長  
山田大阪大学附属図書館長

祝電披露 : 国立大学図書館協議会会長

日本医学図書館協会会長

東京大学附属図書館長

浜松医科大学附属図書館長

東京水産大学附属図書館長

筑波大学図書館部管理課長

木本ゆき子氏

館内案内

祝 宴（正午、図書館ホール）

司 会 ： 原図書課長

開宴の辞 ： 中村副学長

乾 杯 ： 平沢参与（元京大総長）

テーブルスピーチ ： 本原参与（県医師会長の代理）

クレーン女史（京都アメリカンセンター館長）

閉会の辞 ： 佐野副学長

以下、野崎附属図書館長の挨拶及び経過報告を掲載します。（学長の式辞は「学報」No.15に掲載）

## 挨拶及び経過報告

附属図書館長 野 崎 光 洋

本日は年度末のお忙しい折にも拘りませず、本学図書館開館記念式典に多数御臨席下さり厚く御礼申し上げます。

さて、昭和49年10月守山市の仮校舎で滋賀医科大学が発足して以来、本学図書館は4年余り仮住いの不便を忍んで参りまして、利用者の皆様にも多大の御不便をおかけ致しておりましたが、本日ここに新しい図書館が竣工致しましたことは偏えに関係各位の御支援、御協力の賜であり心より御礼申し上げる次第でございます。

申すまでもなく医科大学の図書館の使命は医学の教育、医学研究、ならびに診療に必要な情報の収集、組織化、ならびにその情報をすみやかに利用者に提供することです。本学図書館と致しましてもその使命を果すべく鋭意努力を重ねて参りましたが、資料の収集が図書館整備の上で大きな隘路でございました。しかし、幸い本日御臨席の皆様の暖かい御理解と御協力によりまして資料の方も着々と整備されて参り、ここに新しい図書館も完成致しまして、今後一層利用者の便をはかるまでに成長して参りました事は、まことに御同慶のいたりです。

皆様御存知の通り、最近では情報化時代といわれますように情報量の爆発的な増加と情報機構の変化によりまして図書館の機構も大きく変化して参りました。この様な時代に新しく建てる図書館でございますので新しい情報システムを備えた近代的な図書館にしたいと計画をたてて参りました。例えばコンピューターによる文献検索システムの導入、視聴覚システムの整備等もその一つでございます。

しかし、情報機構が変わったと申しましても図書館の基本的使命は研究、教育、診療を支え、必要な情報を提供することには変わりありません。本学図書館と致しましても教官その他の研究者を対象とした研究図書館、並びに学生、医療技術者、その他の職員を対象とした学習図書館を図書館機能の2本の柱と考えております。又利用者の対象も単に学内に限らず医学情報センターとして地域社会へも開けた図書館としていきたいと考えております。このような基本構想のもとに図書館運営並びに資料の収集を行うとともに建築計画をたてて参りました。特に建築に関しましては後程見学の折にゆっくり御覧いただきますが、限られた面積を出来るだけ有効にかつ機能的に利用出来るよう考慮致しました。お手許の資料にもございます様に本図書館は総面積1680㎡で1階800㎡、2階869㎡の2階建でございます。館内はできるだけ間仕切りを少くし、書架は集密書架を除きましてすべて開架式と致しました。そして1階のカウンターを通れば内部では利用者が自由に資料を閲覧出来るように致

しました。

主な部屋の面積は、1 階が玄関ホール138㎡、雑誌開架書架216㎡、閲覧コーナー72㎡、事務室 165㎡で、2 階は閲覧コーナー 220㎡、自由閲覧室75㎡、開架書架 236㎡、集密書架 108㎡でございます。2 階では開架書架を中央に配し東側に集密書架、北側に視聴覚室をもうけ、南側と西側の庭に面したところに閲覧コーナーをもうけました。又、自由閲覧室は学生が時間外にも利用出来る様考慮致しました。書架スペースの総計は560㎡で収納可能冊数は集密書架が約 44,000 冊、開架書架が約 60,000 冊の計約 104,000 冊でございます。学内利用者総数は教官、学生、医療技術者その他を含めまして最終的に約 1700 名になる見込です。閲覧スペースは約 370㎡で閲覧席数は総計 167 席でございます。

視聴覚室には学生、医療技術者等の学習のための個席室と小グループ討論室をもうけ、ビデオ用テレビ、スライド用リングマスター、16mm及び8mm映写機等が利用出来る様に致しました。又ビデオ用撮影機、編集機等も設置致しました。将来はこの視聴覚システムを全学の教育システムとも有機的にむすびつけ発展させていきたいと考えております。

又、玄関ホールにはブラウジングコーナー並びに展示コーナーをもうけ、本日御臨席の河村先生より御寄贈載きました貴重な医学史資料の供覧の場と致しました。これらの資料は医学史研究者はもとより、医学者、学生にとっても貴重な研究資料であり、先祖の残した文化遺産として大切に保存していく所存でございます。

しかし、医学図書館としてはまだまだ資料も充分ではなく、利用者の方に御迷惑をおかけすることが多いと思いますが、図書館職員一同、図書館がサービス機関であることを自覚し、新しい情報化時代の専門職員として少しでも利用者のお役にたてるよう研修を重ねております。そして本学図書館が医学情報センターとして学内はもとより地域社会との交流の場として少しでもお役にたてば幸と存じておりますので、今後大いに御利用載くと共に一層の御支援御鞭撻を賜りますようお願い致しまして御挨拶かたがた御報告と致します。

昭和54年 3 月22日

## 新図書館を利用するために

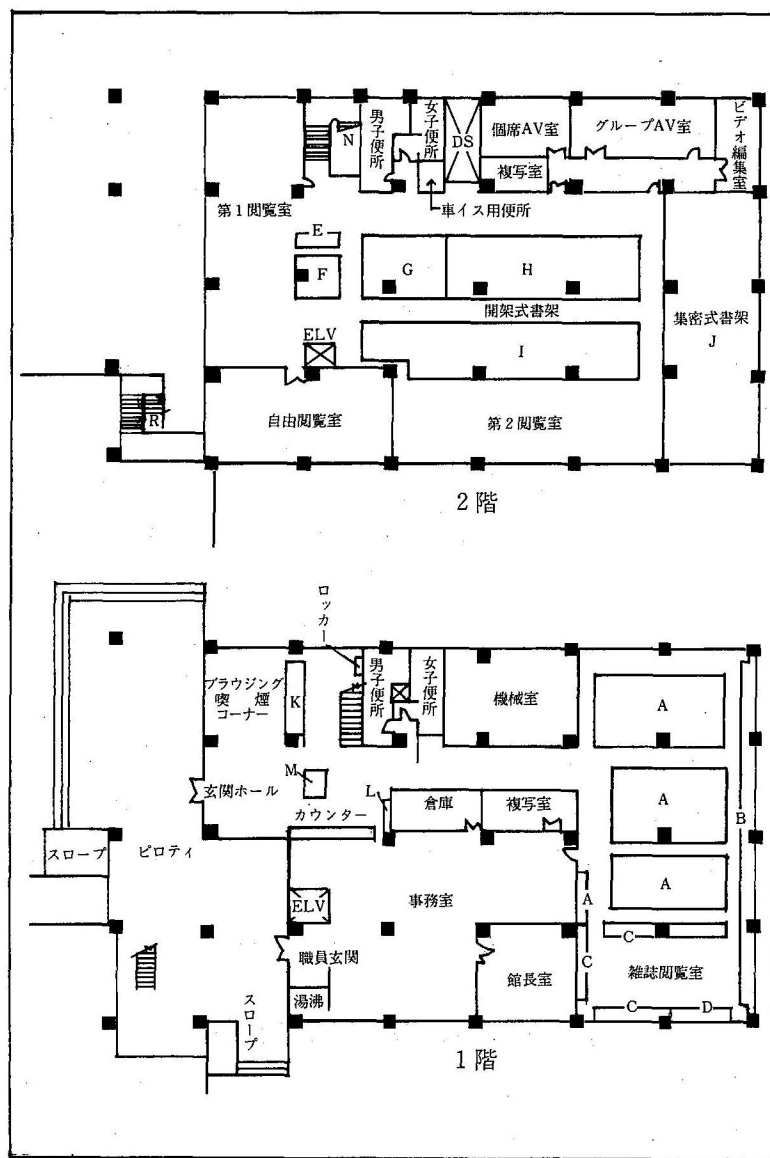
さる 3 月22日に本学の新しい図書館がオープンしました。この新しい図書館を本学の全学生、職員の方々のものとして利用していただくため、館内の配置やサービス内容、利用方法などについて、ご紹介します。

### I. 開館時間 ——夜間開館スタート——

4 月23日(月)より夜間開館を始めました。開館時間は次のとおりです。

平 日	午前 9 時	～	午後 8 時
土曜日	午前 9 時	～	午後 5 時

## II. 館内配置 ——どこに何があるか——



### 資料配置

- A : 欧文雑誌 (1966 年以降)
- B : 未製本外国雑誌
- C : 索引・抄録誌 (Index Medicus, Excerpta Medica, 医学中央雑誌等)
- D : 参考図書 (医学関係)
- E : 新書版
- F : 参考図書 (医学関係以外)
- G : 単行本 (生物・医学以外)

- H : 単行本 (生物・医学)  
I : 和文雑誌  
J : 欧文雑誌 (1965 年以前) ほか  
K : 医学史資料展示台  
L : 医学史資料陳列台  
M : カード目録

### Ⅲ. サービス内容

1. 閲覧—— 視聴覚資料, 医学史資料以外の資料 (単行本・雑誌) は自由に手にとってみる事ができます。

2. 貸出—— あらかじめ登録して貸出券の発行を受けて下さい。(その際, 学生証又は職員証が必要です。)

「図書・製本雑誌貸出券」 5 枚

「未製本雑誌貸出券」 2 枚

を発行します。貸出冊数, 期間, 予約, 継続, 罰則等についての詳細は, 「滋賀医科大学附属図書館利用規程」及び当館発行の印刷物「図書館の利用について」をごらん下さい。

#### 3. 複写

1) 校費—— 各教室等のキー・カウンターを持って 1 階の複写室で。

2) 私費—— 2 階の複写室で。

4. スライド作成—— 短時間のうちに簡単な操作で白黒スライドおよび反転ブルー・スライドがつくれます。場所は 1 階複写室で, 支払いは校費のみです。

#### 5. 利用者援助およびレファレンス

1) 図書館やその資料・施設・設備等の利用の仕方, 目録の引き方, 見方, 文献の探し方等, 利用者が求めるものにたどりつけるよう援助します。

2) 当館にない資料の所蔵館調査。

3) ある特定著作の著者・論題・掲載誌 (書名)・巻号・頁・発行年・発行所等書誌的事項の調査・確認。

4) 特定の著者やテーマについての文献調査。

5) 用語・略語や人・団体・機関, 特定のことがらに関する事実やデーターの調査。

6. オンライン情報検索——くわしくは当館発行の Library News 前号 (No. 1) 及び本号 (No. 2) をごらん下さい。

7. 図書館間相互貸借——当館にない資料については, 国内, 国外を問わず, 図書館間の相互協力により, 複写物又は現物借用の形で入手・提供します。

8. 他大学・機関の図書館の利用依頼状の発行。

9. 視聴覚施設——別項参照。

# 視聴覚施設の利用について

## —— 視聴覚教育のセンターとして ——

当館 2 階には、医師、看護婦、薬剤師、検査技師等あらゆる医療職の人々や学生のための視聴覚教育施設として、1) 個席視聴覚室、2) グループ視聴覚室、3) ビデオ編集室があります。それらの利用についてご紹介します。

### 1. 個席視聴覚室

VTR テレビ 6 台とサウンド・オン・スライド・プロジェクター（ベル・ハウエル社製リング・マスター）2 台を備え、ビデオ・カセットやスライドを用いた個人及びグループ学習のために利用する事が出来ます。

利用資格 —— ①本学職員、②本学学生、③その他館長が特に許可した者。

### 2. グループ視聴覚室

VTR, OHP, スライド, 16mm, 8mmを用いた30名以内のグループによる学習・教育・研究のために利用出来ます。

利用資格 —— ①本学職員、②本学学生、③その他館長が特に許可した者。

### 3. ビデオ編集室

ビデオ編集装置一式を備え、教育及び研究用のビデオ・カセット・テープのダビングや編集のために利用出来ます。ビデオ・カセット, 16mm, スライド, VTRカメラ, 顕微鏡カメラそれぞれから、又はそれらの組合せにより、自由にビデオ番組を編集出来ます。

利用資格 —— ①本学職員、②その他館長が特に許可した者。

これらの施設を利用できる時間は

1) 平 日 午前 9 時 ～ 午後 8 時

2) 土曜日 午前 9 時 ～ 午後 5 時

ですが、グループ視聴覚室及びビデオ編集室については、利用申込は、

1) 平 日 午前 9 時 ～ 午後 5 時

2) 土曜日 午前 9 時 ～ 正午

までの間に行なって下さい。係員が機材の取扱い方をご説明します。

### 4. 視聴覚機材の貸出

貸出用として、ポータブル式 VTR 一式及び OHP 1 台があります。教育及び研究のために利用する事が出来ます。

利用資格 —— 本学職員に限る。

申込受付時間

1) 平 日 午前 9 時 ～ 午後 5 時

2) 土曜日 午前 9 時 ～ 正午

3) 貸出期間 —— 3 日以内

これらの施設又は機材貸出の利用の際は、それぞれの利用要項に従い、カウンターでお申込みのうえ、係員の指示に従って下さい。グループ視聴覚室利用と視聴覚機材の貸出にあたっては事前に申込書が必要です。責任者の印鑑をご持参のうえ、カウンターにてお申込み下さい。

## JOISオンライン文献検索ファイルの変更について

### CACからCASEARCHへ —— 物質名の検索が容易に ——

昭和54年4月末日までサービス提供を受けておりましたCAC化学文献ファイル(90巻13号まで)(以下CACと略)がCASEARCH化学文献ファイル(以下CASと略)に5月より改められました。(90巻1号より変換、89巻以前はCACのまま。)CACと比べて、CASの検索法における最大の特長は、CACにおける物質名、化学名等の検索の場合、IndexされたKeywordの統一性がなく、単数形、複数形や同義語(化学名、一般名、商品名等同一物質に与えられた様々な名称)をそれぞれ入力する事によって、検索のものを防いできていましたが、CASにおいて、Registry Numberを入力する事によって、同一物質の検索がほとんどもれなく行なわれる事になりました。

昭和55年1月からは、84巻以降のファイルがCASに変換される計画になっています。

#### CAS使用料金

ファイル使用料	207円/分
オフライン手配料	500円/回
オフライン回答書料	23円/件

通話料	30円/分
-----	-------

#### ファイル利用時間

時 間	月	火	水	木	金	月～金
9:45～17:00 (但し12:00～ 13:00は休み)	MED TOX	CAS	MED CAS	MED TOX	CAS	JICST CLEAR

## IDEAS/77(筑波大学会話型情報検索システム)の利用について

IDEAS/77(Interactive Database Easy Accessing System)は、現在サービス提供を受けておりますJOISオンライン文献検索と同様に、筑波大学学術情報処理センターのコンピューターを利用して各種Databaseのサービスを受ける事ができるシステムです。現在はまだ試験的なシステムで、個々のファイルの情報蓄積量はJOISと比べて多くはありませんが(表1参照)、今後拡充される予定です。IDEAS/77により利用できるDatabase中、Excerpta MedicaとBiological Abstractsに関して調べましたところ、特徴的な事として、オンラインでAbstractまで得られます。①文献を検索して、他大学へコピー依頼し入手するまで重要な文献についてのみAbstractを出力し、その間の補助情報とする。②タイトルだけでは不明瞭なものの内容を確認する、等利用できます。さらに文献の出力形式が自由で、1st lineにAuthor、2nd lineにTitle、3rd lineにJournal…等の指定が可能です。IDEAS/77は今後も機能追加、Version Upが続けられていく予定ですが、医



学・生物学関係ファイルについては、JOISの補助検索として利用の検討が妥当のようです。

料 金 約100円/分 (試算による)

通話料 10円/4秒

平均使用時間 15～20分

表1 IDEAS/77により利用できる主なデータベース

1979年5月現在

データーベース名	蓄積範囲
Excerpta Medica	Sept. - Oct. '78
BA Previews and BAT (Biological Abstracts and Bioresearch Index)	Vol. 65, 66. '78
CA Chemical Substance Name	Vol. 87, no. 19
Chemical Abstracts	Vol. 87, no. 19
Environmental Science Index	1971-1978
Science Citation Index / Mathematics	Jan. - Apr. 76
Science Citation Index / Plasma Journal	1972-1974
Library & Information Science Abstracts	1969-1977
Current Index to Journals in Education	1969-1977
Resources in Education	1969-1977
Minryoku Data	
MESH Data of Cencus	Tokyo 1975 Ibaraki 1975

## Telex 開 通 の お 知 ら せ

4月3日より当館に Telexが設置されました。Telex はいわば、電話と電信の長所をいかした通信手段でその特長は、確実な記録が残る、速い、間違いがない、経済的であるなど図書館の相互貸借の面で、合理化、迅速化をはかるに欠かせないものです。従来、郵便により処理してきた相互貸借も、電話と同じようにダイヤルで先方を呼び出し、タイプキーをたたいて直接通信でき、依頼した文献に対して謝絶等の場合、すぐに Telex で返事がかえってきます。又この他に図書等の所蔵館調査もできます。国内だけでなく、国外への国際通信も可能で、BLLD (British Library Lending Division) への申し込みも郵便だと1カ月近くかかっていましたが、Telex を利用するともっと早く入手できます。Telex を設置している医学図書館は今のところ、滋賀医大を含めて23ヶ所です。

Telex は誌名・巻号・頁・年・著者・論題まで打鍵しますので、早く文献を入手するためにも正確な申込書が必要となってきますので、よろしくお願いします。

# 国立大学等図書館間における文献複写システムの改善について

## —— 文献複写の事務手続の簡素化と入手期間の短縮化へ ——

### 1. はじめに

国立大学、国立高等専門学校（以下「国立大学等」という）の図書館間における文献複写にかかわる事務手続の簡素化は長年の懸案となっていました。この問題について文部省はその改善策を昨秋、全国の国立大学等に示し、昭和54年4月1日をもって実施に移す事を決定しました。これにより全国の国立大学等図書館間における文献複写は今年度から新しい方式に移行しました。以下に今回の改善内容の要点を説明します。

### 2. 改善の要点

新方式では、複写データー処理センターを大阪大学附属図書館内に設け、全国の国立大学等図書館間の校費、私費の文献複写経費の収支決算をセンターのコンピューターによって処理し、その結果に基づいて文部省が各国立大学等図書館に配賦する図書館維持費で精算するというやり方に改められました。これにより、従来のように複写一件毎に納入告知書を発行したり、支出負担行為を起したりする事がなくなり、事務手続が大幅に簡素化され、文献複写の入手に要する期間も短縮されます。又、私費による場合も、これまでのように請求のあった複写経費を現金書留で郵送し、その後複写物の郵送を受けるという方式にかわって、複写物と経費通知を同時に入手出来るようになり、支払も文献複写申込を依頼した図書館（室）において国庫歳入するという方式に改められました。この点にも大幅な改善がみられます。

### 3. おわりに

今回の改善は、国立大学等図書館間に限られ、その他の機関に対しては従来どおりの方式が採られるとはいえ、システムとしては抜本的な改善です。今後は国立大学等以外の国公立の教育・研究機関との間でもこの方式が採用される事を期待するものです。

## 県内医療機関に対するサービス開始

### —— 県医師会、病院図書室との懇談会について ——

本学は“地域に開かれた大学”を標榜しておりますので図書館としてもかねがね地域に対するサービスを考えておりました。そこで、さる4月27日に本学で県医師会、県内各病院図書室との懇談会を開き、当館との間で行う具体的協力活動について話し合いました。その結果、次のような要領で県医師会及び県内各病院に対しサービスを行う事になりました。

1. 利用方法・手続 当館の利用を希望する機関を当館に登録し、開業医の場合は県医師会、病院勤務の医師その他の職員の場合は所属の病院の図書室が窓口となる。直接来館の場合は所属機関の発行する身分証明書（医師会会員証、病院職員証等）を提示のうえ、入館者名簿に記入する。
2. サービス内容 ① 閲覧、② 複写、③ 郵送による文献複写、④ 当館の所蔵目録、出版物、印刷物の配布。
3. 利用時間 平日：午前9時～午後8時、 土曜日：午前9時～午後5時

なお、同懇談会には県医師会、13病院及び近畿病院図書室協議会より18名が参加し、今後も「滋賀県医学図書館懇談会」の名称で年2回程度会合をもち、滋賀県下の医学情報ネットワークづくりをおこなって行く事になりました。現在のところ県医師会及び21病院より、利用登録申込があり、県下の医学情報センターとしての役割が当館に求められています。

## 図 書 館 の 活 動 (53・11～54・5)

- 53・11・7 国立国会図書館長と大学図書館長との懇談会（京都産業大）
- 11・27 大学図書館機械化委員会（神戸大）
- 12・12 J O I S 導入図書館連絡会議（本学）
- 12・15 近畿地区医学図書館協議会例会（京府医大）
- 12・18 図書館委員会
- 54・1・17 河村文庫医療器具検討会
- 1・18 国立大学図書館協議会総会打合せ（阪大）
- 1・19 視聴覚システムの設備と運用に関する公聴会
- 1・22 大学図書館機械化委員会（大阪府大）
- 3・2 図書館委員会
- 3・7 図書館事務室新館へ移転
- 3・22 図書館竣工・開館記念式典（翌23日から開館）
- 3・26 国立大学図書館協議会近畿地区協議会（京大）
- 3・26 近畿地区国公立大学図書館協議会企画委員会（京大）
- 4・3 テレックス開通
- 4・20 近畿地区医学図書館協議会例会（本学）
- 4・23 夜間開館開始（平日：午後8時まで、土曜日：午後5時まで）
- 4・25 持廻り図書館委員会
- 4・27 県医師会、病院図書室、医大図書館との懇談会
- 5・16 国立大学図書館事務部課長会議
- 5・18 図書課長 原 博 氏 急逝
- 5・24 図書館委員会
- 5・28 近畿病院図書室協議会研修会（本学）
- 5・30 近畿国公立大学図書館協議会総会（京府医大）
- 5・31 アリス・M・レイジ女史来館（米国大使館国際交流局図書館企画担当官）

### 原 博 図 書 課 長 逝 去

図書課長 原 博 氏は、去る5月18日脳出血のため逝去されました。原氏は文部省・東京水産大学図書館事務長を経て、53年4月から本学に赴任され、新図書館の整備、特に古文書学に造詣が深かったため「河村文庫」の整理には中心的役割を果たしてこられました。

謹しんでご冥福を祈ります。

合 掌

---

Library News No. 2 (1979年6月)

発行：滋賀医科大学附属図書館

〒520-21 大津市瀬田月輪町 電話 0775-48-2076